

コロナ禍における教育実習の実際から

A research for Teaching Practice on the Disaster of Covid-19

石村 雅雄, 藤森 弘子

ISHIMURA Masao and FUJIMORI Hiroko

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 37 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.37, Feb, 2023

コロナ禍における教育実習の実際から

A research for Teaching Practice on the Disaster of Covid-19

石村 雅雄*, 藤森 弘子**

*〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地 鳴門教育大学 グローバル教育コース

**〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字浜田 37 番地 1 鳴門市第一中学校

ISHIMURA Masao* and FUJIMORI Hiroko**

*Course of Global Education

748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

**Daiichi Junior High School in Naruto City

37-1 Hamada, Minamihama, Muya-cho, Naruto-shi, 772-0003, Japan

抄録：本稿は、2021 年度、コロナ禍において、X 中学校で藤森が校務分掌として担当した、「教育実習」の実際からの検討について報告するものである。コロナ禍において、学校現場は安心安全で適切な教育活動の遂行のために苦慮している。そして、同じくこのような状況下での安心安全な教育実習の実施は困難であった。

教員不足、教員志望者の減少が課題となっている昨今、教育実習生が実習を経て、より一層、教員を志望する気持ちが強くなるような、効果的な、そして、安心安全な教育実習のあり方が検討されなければならないと考える。

キーワード：教育実習、コロナ禍

Abstract : This paper is a report for on the actual analyze of "teaching practice" that Fujimori was in charge of as a division of school duties at X Junior High School amid the spread of COVID-19 in the 2021 school year. In the wake of the Covid-19, school sites are struggling to carry out educational activities in a safe and secure manner. In the same way, it was difficult to implement safe and secure teaching practice under such circumstances. In recent years, when the shortage of teachers and the decrease in the number of applicants for teacher employment have become issues, we believe that effective and safe and secure forms of teaching practice that will make education trainees feel even stronger after going through practical training.

Keywords : Teaching Practice, The Disaster of Covid-19

I. はじめに

2020 年、2021 年、2022 年とコロナ禍に揺れ続けている学校現場である。そして、2021 年度、学校現場は「教育実習」を経験していない教員が新規採用され、子どもたちの前に立ち、授業を行っている。意外にも、このことによる問題等は表立ってはいない。これはどういうことなのか。実践力あるいは即戦力ともいえるような教員の育成を目指す教員養成の一つの要とされる「教育実習」の意味とは何なのか。そもそも、現状の「教育実習」に問題はないか。2021 年度、コロナ禍において、X 中学校で藤森が校務分掌として担当した経験から検討し、今後の「教育実習」の在り方を考える端緒としたい。

II. 教育実習要項

藤森が、勤務校のこれまでの教育実習要項を基に、改訂した教育実習要項は次の通りである。

令和 3 年度 教育実習生（9 月～10 月）

令和 3 年 9 月 6 日(月)～10 月 1 日(金) 4 週間

☆ H 実習生：令和 3 年 9 月 6 日(月)～9 月 24 日(金)の
3 週間

配属学級	実習生	教科	教科等担当
2 年 D 組 (T 先生)	Y	社会	K 先生
2 年 B 組 (M 先生)	N	英語	I 先生
1 年 A 組 (Y 先生)	H	養護	T 先生

1. 実習の目的

教育実習は、生徒の全人的育成をめざす教育に携

わる教師としての実践的体験を積む教育研究の一分野である。この実習期間をとおして、学習指導・学級経営など全般にわたっての実践的能力を身につけることを目的とする。

生徒や地域の実態を知り、そこで営まれている教育活動や教職員の勤務の実態の観察、教科指導など直接生徒を指導することによって、教育の重要さ・困難さ・喜びなどを経験し、教育者としての人間形成に努めたい。

2. 実習の心得

- (1) 実習生は、原則として午前7時50分（午前8時10分）までに登校し、出勤簿に押印する。遅刻や欠勤の場合は、必ず学校に連絡し、所定の手続きをとる。
 - (2) 勤務は厳正にし、学校を離れるときは学校長または教頭の許可を得る。
 - (3) 職務に専念し、公務の秘密保持を厳守する。
 - (4) 服装・言動・態度は生徒の手本となるように努める。
 - (5) 可能な限り生徒とのふれあいをもつようにする。ただし、許可なく生徒を校外に引率したり、家庭訪問をしたりしてはならない。また、生徒と電話やSNS等による個人的な関わりを持たない。
 - (6) 登下校時は、職員や生徒に気持ちのよいあいさつをする。
 - (7) 職員朝会までに、その日の教育活動について指導教師から指導を受ける。
 - (8) 見学・観察や実習等をする場合は、前日までに指導教師の指導を受ける。
 - (9) 道徳・学級指導の実習は、配属学級担任の指導を受けて行う。
 - (10) 学習指導案の作成は、教科担当指導教師の指導・助言を受ける。
 - (11) 部活動の見学や参加は顧問教師の許可を受けてから行う。
 - (12) 学校行事にも積極的に参加し、何らかの役割を果たすように努める。
 - (13) 下校は原則として16時45分以降とするが、遅くまで残って指導担当教師に迷惑をかけないようにする。また、指導担当教師に下校の報告をする。
 - (14) 実習記録は毎日つけ、指導教師に提出する。
 - (15) 日々、自身の健康をチェックし、体温測定を必ずする。マスク着用、手洗いの徹底、消毒も忘れずにする。
- ※実習中の疑問点や悩みは、遠慮せず指導教師に相談してください。

※ささいなことと独断せず、報告・連絡・相談することが大切です。

3. 教育実習の内容

(1) 講座と担当者

- 学校経営・教育実習の意義について (A 校長)
- 教職員の服務について (M 教頭)
- 教科指導・指導案について (教科担任)
- 保健指導について (T 養護教諭)
- 学級指導・学級経営について (配属学級担任)
- 人権教育について (K 人権教育主事)
- 生徒指導について (T 生徒指導主事)
- 特別支援教育について (S 教諭)
- キャリア教育について (Y 教諭)

(2) 教壇実習（学習指導案の作成、授業実践、反省会）

- ①教材研究
- ②教科・道徳・特別活動の授業実践と反省会
- ③配属学級における学級指導
- ④研究・実習授業の参観と反省会

(3) 教務実習

- ①校務（担当）事務、諸帳簿記録・管理、諸計画、企画
- ②事務処理（諸記録、生徒の提出物の管理・処理）、環境整備等
- ③施設・設備・校具・教材教具等の維持・管理
- ④打ち合わせ、会合、渉外等の見学・参加

(4) 学級指導の内容（一日の仕事）

登校	学級（教室）の点検、生徒の状況の観察、あいさつ運動への参加
短学活	連絡、諸注意、健康観察
給食	配膳・食事等給食指導、後始末の確認
昼休み	健康観察、見回り
清掃時	清掃指導、点検
短学活	反省、連絡、話し合い
放課後	個人指導（生活・学習）、教室管理（営繕・戸締まり）
	部活動見学・指導補助

4. 勤務内容

- (1) 出勤簿（表）押印
- (2) 机上整理、環境美化（職員室、実習生控え室）
- (3) 配属学級の点検
- (4) 交通指導、あいさつ運動
- (5) 職員朝会参加（あいさつ、連絡事項のメモ）
- (6) 短学活（見学、観察、実習）
- (7) 教材研究、授業参観、授業実践、反省協議
- (8) 校務見習い・補助
- (9) 学級事務見習い・補助

- (10) 渉外見習い・補助（保護者・来校者・電話への対応）
- (11) 管理・保全（設備・校具・教材、防災）
- (12) 給食指導
- (13) 清掃指導
- (14) 部活動の見学
- (15) 実習記録
- (16) 下校前に配属学級及び実習生控え室の換気・点検・戸締まり確認

教育実習を受けるために

＊短期間ではありますが、充実した実習ができるよう準備してください。

1. 本校の実習要項ならびに各大学の実習要項を熟読しておいてください。
2. 9月6日(月)〔実習第1日目〕の日程

7：50 西棟3階調理室に集合 校長先生に挨拶
2日目からは玄関前で挨拶運動に参加
 8：00 諸連絡、打ち合わせ
 8：10 職員室前に集合 2日目からは、各学級で出欠確認（8：10）
 8：15 職員朝会に参加（あいさつ）
 8：30 配属学級に行き、短学活（あいさつ、自己紹介）
 8：45～9：35 1校時
 9：45～10：35 2校時
 10：45～11：35 3校時
 11：45～12：35 4校時
 12：35～13：10 給食指導（配属学級）給食放送で自己紹介（代表）
 13：30～14：20 5校時
 14：30～15：20 6校時
 15：20～15：35 清掃指導
 15：35～15：45 短学活
 ※放課後や空き時間等を利用して、担当教師（教科・学級）と打ち合わせを行う。

3. 準備物

- ・本校作成の「実習要項」
- ・大学から渡されている実習に関する資料・書類等
- ・印鑑（認印：朱肉を使用するもの）
- ・筆記用具、実習ノート
- ・上履き、体育館シューズ、水筒、タオル、着替え（部活に参加予定の人）
- ・給食費（事務室・T事務長より連絡あり）一食293円×日数分 ※おつりがないように。

4. 注意事項

- ・実習にふさわしい服装で。上履きと体育館シューズの区別を明確に。

- ・貴重品はできるだけ持って来ない。
- ・実習生控え室（西棟3階調理室）に生徒を呼ばない。
- ・ゴミの分別・処理をきちんとする。（ゴミ袋は事務室にあります）
- ・実習生控え室の整理整頓・環境美化に努める。
- ・実習生としての立場をわきまえる。
- ・授業を見学したい場合は必ず事前に了解を得ること。
- ・時間厳守。
- ・教材研究は、担当教師の予定を聞いてお願いする。
- ・勤務時間は16時45分までで、空き時間は教材研究や実習記録の整理にあてる。
- ・実習記録は提出し、教科指導教師・学級指導教師の指導を受ける。
- ・授業実施後は参観してもらったすべての教師から指導助言を受ける。
- ・配属学級では給食の後始末や一歩（生活記録）の点検、清掃等に積極的に参加する。
- ・実習最終日、生徒へのお金のかかったプレゼントは控える。
- ・教科書は借りる等して準備する。
- ・生徒会役員とともに朝のあいさつ運動に参加する。2日目から生徒玄関前で。

5. その他

①あいさつ

- ・初日職員朝会（代表）
- ・配属学級（各自） ＊あいさつを考えておく。
- ・全校生徒への紹介…給食放送（代表）
- ・最終日職員朝会（代表）

②当番 ＊毎日、確実に仕事をしてください。（当番の仕事）

- ・実習生控え室（西棟3階調理室）の解錠・施錠、鍵の管理
- ・実習生控え室の換気、清掃、整理整頓、ゴミ出し（分別）
- ・講話担当の先生を案内（講話の場所の確認も、朝一番に）
- ・講話時のあいさつ

③自転車で登校の場合は、体育館下に置いてください。車の場合は、北門から入り、駐車してください。靴置き場は職員用を使って下さい。

④授業の見学に行く場合は、担当教師を通して許可を得るようにしてください。

⑤評価授業について

実習の最後の週に評価授業を行います。事前に指導教師とよく相談し、評価授業の前日には指導案を各先生方（校長先生・教頭先生・B先生・同じ教科の先生・Fなど関係のある先生）の机上に配ってください。

講義時間割

日時	1	2	3	4	5	6
9/6 (月)		学校経営 A 校長 (校長室)				人権教育 K 先生 (相談室)
9/7 (火)		保健指導 T 先生 (保健室)				特別支援 教育 S 先生 (相談室)
9/8 (水)				生徒指導 T 先生 (相談室)	キャリア 教育 Y 先生 (相談室)	教職員服務 M 教頭 (相談室)

＊日程（時間）は予定で、変更になることもあります。
朝、代表者は担当の先生方に確認してください。

<諸注意>

- ・登校はなるべく自転車か徒歩でお願いします。自転車は、体育館下においてください。鍵は必ずかけてください。
- ・靴箱は、玄関の職員靴箱のあいているところ（最下部）に入れてください。（袋に入れて、待機室で保管してもかまいません。）
- ・待機室は、西棟3階調理室です。帰りの施錠後、鍵は必ず返してください。貴重品の管理には気をつけてください。電気、エアコンの消し忘れに注意。
- ・待機室には生徒を入室させてはいけません。飲食物は持参してかまいませんが、生徒の目に触れないようにしてください。

- ・朝必ず出勤簿に印鑑を押します。（印鑑を押す紙を職員室前に置きます。毎朝来たら押します。）欠席するときは早めに連絡をしてください。
 - ・帰りは16時45分を過ぎたら帰ってもかまいません。ただし、部活指導に参加できるのであれば、各担当の先生の許可を得て参加してください。
 - ・もし、他の先生の授業を参観したいときはその先生に前もって（できれば前日）許可を得てからにしてください。
 - ・指導案は校長、教頭、担当の先生、同じ教科の先生、教務のB先生、F（とじて保存）等に前日までに渡してください。
 - ・給食時もマスクが必要です。もちろん常時着用してください。給食時は黙って食べてください。
 - ・名札をつけてください。
- ＊実りある教育実習にしてください。ささいなことでも遠慮せずたずねてください。

Ⅲ. 新型コロナウイルス感染症に係る文書

令和3年度に、教育委員会及び学校から出された、新型コロナウイルス感染症に係る文書は次の表の通りである。

表 新型コロナウイルス感染症に係る文書

Z 県教育委員会	Y 市教育委員会	X 中学校
<p>○「T アラート・感染拡大注意『新增』」の発動について（通知）【R 3. 4. 12 体育学校安全課長】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の更なる徹底について（通知）【R 3. 4. 16 体育学校安全課長】</p> <p>○部活動における感染拡大防止対策の「更なる対策強化」について（通知）【R 3. 4. 26 教育長】</p> <p>○教育長メッセージ 生徒・保護者の皆様へ ～新型コロナウイルス感染症拡大防止について～【R 3. 4. 26 教育長】</p> <p>○令和3年8月17日以降の感染拡大防止対策について【R 3. 8】</p> <p>① 学習指導について</p> <p>② 学校行事について</p> <p>③ 部活動について</p> <p>④ 研修及び出張について</p> <p>○部活動における感染拡大防止対策の「更なる対策強化」について（通知）【R 3. 8. 31 教育長】</p> <p>○部活動における感染拡大防止対策の「更なる対策強化」について（通知）【R 3. 9. 10 教育長】</p> <p>1 活動内容等について</p> <p>2 地域を限定した対策として</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症に係るお子様の登校（園）の判断等について（お知らせ）【R 3. 4. 8 教育長】</p> <p>・お子様の登校（園）を控えていただきたい事例について</p> <p>(1) お子様が感染した、あるいは「濃厚接触者」に特定された場合</p> <p>(2) お子様が PCR 検査を受けることになった場合</p> <p>(3) お子様に発熱などの体調不良が見られる場合</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に係る連絡先について</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に係る保護者の皆様へのご連絡について（お知らせ）【R 3. 4. 26 教育長】</p> <p>・日中のほか、夜間・早朝に臨時休業のご連絡をする場合があります。</p> <p>・ご連絡する内容やその取り扱い、「人権への配慮」を最優先とします。</p> <p>・お子様の登校（園）を控えていただきたい事例について</p> <p>① お子様が感染した、あるいは「濃厚接触者」に特定された場合</p> <p>② お子様が PCR 検査を受けることになった場合</p> <p>③ お子様に発熱・せきなど風邪のような症状や体調不良が見られる場合</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症対策について（お知らせ）No.1【R 3. 4. 14】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に関して（共通理解）No.2【R 3. 4. 15】</p> <p>★電話対応編「PCR 検査を受けることになりました」という電話があったら・・・</p> <p>① 「生徒」が受ける（受けた）場合</p> <p>② 「保護者」が受ける（受けた）場合</p> <p>「結果がでました。陰性でした。」という電話があったら・・・</p> <p>○新型コロナウイルス感染症予防について【R 3. 4. 19 学校長】</p> <p>・登校前の健康管理</p> <p>・学校生活中の健康管理</p> <p>・帰宅後の健康管理</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に関して（共通理解）No.3【R 3. 4. 21】</p> <p>・感染拡大防止対策の強化について</p> <p>① 学習指導について（各教科等の指導における感染症対策等に関するもの）</p> <p>② 学校行事について</p> <p>③ 部活動について（活動前・活動時・活動後）</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に関して（共通理解）No.4【R 3. 5. 6】</p> <p>・学習指導について</p> <p>・部活動について</p> <p>・研修及び出張について</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策研修会より【R 3. 5 職員会資料】</p> <p>・教育次長より</p> <p>・防災・健康教育幹より</p> <p>① 変異株について</p> <p>② 予防策について</p> <p>③ モニタリングについて</p> <p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策教職員用チェックリスト（毎日用）【R 3. 5. 12】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策部活動顧問用チェックリ</p>

<p>○新型コロナウイルスに関する人権に配慮した行動と心のケアについて【R 4. 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の皆さんへ ・保護者の皆様へ ・相談窓口 ・令和4年1月19日以降の感染拡大防止対策について <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の徹底について（R4. 1. 17 版）（通知）【R 4. 1. 17 体育学校安全課長】</p> <p>○令和4年2月8日以降の県立学校における教育活動等に係る感染拡大防止対策について（通知）【R 4. 2. 8 教育長】</p> <p>○運動を伴う学校教育活動における感染拡大防止対策の「更なる強化」について（通知）【R 4. 3. 4 教育長】</p> <p>○令和4年3月22日以降の県立学校における教育活動等に係る感染拡大防止対策について（通知）【R 4. 3. 22 教育長】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る連絡先について <p>○新型コロナウイルス感染症に係る保護者の皆様へのお願い【R 3. 8. 25 教育長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子様・同居のご家族の体調不良時について ・臨時休業のご連絡について ・ご連絡する内容と取り扱いについて ・お子様の登校（園）を控えていただきたい事例について ・新型コロナウイルス感染症に係る連絡先について <p>○新型コロナウイルス感染症に係る保護者の皆様へのお願い（その2）【R 3. 9. 3 教育長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種・副反応によるお休みについて ・お子様の心のケアについて ・「コロナ感染」についての冷静な対応について <p>○新型コロナウイルス感染症の対応について（お願い）【R 3. 9. 17 教育長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デルタ株について ・家庭内での「感染予防対策」8つのポイント <p>○冬季休業中（年末年始を含む）における感染拡大防止対策の徹底について（お願い）【R 3. 12. 23 教育長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染拡大防止対策の徹底 <p>○新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業の実施について【R 4. 2. 16 教育長】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に係るお子様の登校（園）の判断について（お願い）【R 4. 2. 18 教育長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子様の登校（園）を控えていただく事例 <p>○新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業の実施について（追加）【R 4. 2. 24 教育長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで ・これから ・保護者の皆様へのお願い 	<p>スト【R 3. 5. 12】</p> <p>○生徒に感染が判明した場合の対応について（共通理解）【R 3. 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しなければならないこと ・流れ ①対応教員 ②役割等 ・検査場の配置と生徒の流れ（体育館） ・在宅勤務実施計画書 <p>○新型コロナウイルス感染症対策に関する（共通理解）No.6【R 3. 6. 30】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年6月25日以降の感染拡大防止対策について ① 学習指導について ② 学校行事について ③ 部活動について ④ 研修及び出張について <p>○新型コロナウイルス感染症予防について（お願い）【R 3. 8. 25 学校長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校前の保健管理 ・学校生活中の保健管理 ・帰宅後の保健管理 <p>○N 中夏休み明け新型コロナウイルス感染症対策について～今こそみんなで頑張ろうバージョン～【R 3. 8】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健衛生管理について 2 学習活動について 3 部活動について <p>○新型コロナウイルス感染症対策について（共通理解とお願ひ）No.7【R 3. 8. 25】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アラート引き上げに伴って・・・ ・確認～感染者、濃厚接触者が確認された場合の対応～ <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために【R 3. 8. 25 保健室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調不良を訴えた場合は ・保健室連絡カードについて ・新型コロナウイルス感染症対策プレゼンについて <p>○9月1日～9月12日までの部活動について（共通理解事項）【R 3. 9. 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全下校 16：45（時間厳守） <p>○新型コロナウイルス感染症対策について（共通理解）No.8【R 3. 9. 21】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年9月19日以降の感染拡大防止対策について <p>○新型コロナウイルス感染症対策について（共通理解）No.9【R 3. 9. 27】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月26日に「T アラート」ステージⅡへと引き下げ！令和3年9月26日以降の感染拡大防止対策について <p>○新型コロナウイルス感染症対策について（共通理解）No.10【R 3. 10. 15】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「T アラート」解除！令和3年10月13日以降の感染拡大防止対策について <p>○新型コロナウイルス感染症対策について（共通理解）No.11【R 4. 1. 11】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動について <p>○陽性と判明した場合【R4.1.19】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策について（共通理解）No.12【R 4. 1. 26】</p> <p>○安全・安心な学校づくりのために コロナ感染症対策編【R 4. 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本対策の徹底 ・学校生活「どうすれば」 ・部活動「当たり前の見直し」 ・教職員「みんなで」 ・人権に配慮した対応～正しい行動とは・・・ ・登校から授業開始まで ・学校生活 ・下校後 <p>○令和4年度Z県公立高等学校入学者選抜について（お知らせ）【R 4. 2. 24 学校長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に対応した検査実施について
--	---	--

以上のような文書の数の多さからも、コロナ禍において、どれだけ学校現場が安心安全で適切な教育活動の遂行のために苦慮したかということが理解され则认为る。そして、同じくこのような状況下での安心安全な教育実習の実施がいかに大変だったかということも理解されよう。

Ⅳ. コロナ禍における教育実習

令和3年8月、コロナは感染拡大していた。そのため、

Ⅲにおいて前述の、8月17日付けの文書には、「感染リスクの高い教育活動は、実施しない。」とある。さらに、Z県は8月17日に「ステージⅢ」だったアラートが8月19日には「ステージⅣ」に引き上げられた。そのため、8月25日付けの文書には、「修学旅行・遠足などの校外行事の実施は、県内外問わず延期等とする」に変更、「文化祭・体育祭を実施する場合、非公開とし感染対策を」に変更となった。

また、感染拡大防止のために、X中学校では、学校で体調不良を訴えてきた生徒について、①教室で熱を測っ

て、熱がある場合には、帰りの用意をして、別室（保健室の隣の部屋）へ行く。②熱がない場合は、帰りの用意をして、保健室へ行く。③その後、担任または学年で保護者連絡をする。もし、連絡ができない場合は保健室へ相談する。④生徒には、保健室連絡カードを持たせて保健室または別室へ行かせ、保護者への連絡がとれているかどうか、帰ったかどうかの確認をする。という、手順を取るようになった。

8月31日付けの文書を受けて、9月1日から9月12日までの部活動の活動時間は平日1時間以内、休日2時間以内とし、平日は完全下校16時45分時間厳守となった。

9月3日付けの文書には、「お子様の心のケアに、より一層ご留意ください。」とある。「9月は、普段でも、お子様にとっては日常のリズムを取り戻すために心身にかかる負担の大きい時期」であり、「自分もいつか感染するのではないか、このまま感染が終わらないのではないかとお子様の不安な気持ちが高まっていくことも十分考えられ」ることから「お子様について不安や心配な点がございましたら、学校（園）までご相談ください」とある。

さて、このような状況下における教育実習はどうだったのか。

8月に入り、藤森は教育実習を計画通り実施していいのかどうか思案した。まず、教頭に相談した。教頭は校長に相談した。校長はY市教育委員会に相談した。Y市教育委員会は「各学校で対応を検討するように」ということだった。校長は、市校長会を通じて、教育実習生の在籍大学に教育実習実施期間等の見直しを求めたが受け入れられなかった。そして、教育実習の開始日を1週間遅らせるという対応になった。但し、教育実習実施期間は当初の予定通りであった。

X中学校の教員の中からは「この時期に教育実習するの？」という声があった。部活動時間の短縮や生徒への対応等に、デリケートになっている状況下であるということもある。また、当時、教育実習生の在籍大学によっては、オンライン講義を実施し、構内に入ることを禁止していた。中学校での教育実習は実施し、大学の構内に入ることは禁止するという対応に、矛盾を感じるがあった。

「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通知）（令和3年文部科学省令23号）」の「＜参考＞令和2年度又は令和3年度に実施が困難となった教育実習の代替措置」によると、「令和2年度又は令和3年度に限り、教育実習の科目の単位の全部又は一部を大学で代替可能とする」^{注1)}とある。これに基づく教育実習のあり方の検討を期待したが、迅速かつ臨機応変な対応の検討は十分には為されなかった。なお、令

和4年度の教育実習の実施については、令和2年度及び令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症及びそのまん延防止のための措置の影響により、教育実習の受け入れが困難な状況もあり得ること等から特例を延長することになっている。^{注2)}

V. まとめにかえて

「実習公害」ということばがある^{注3)}。「教育実習は、実習校にとって余計なものと考えられがちであり」、「日常的教育諸活動に対応する教師にとって負担増になることはさけられず、どうしても敬遠されがちである」^{注4)}とある。藤森は、「余計なもの」とは考えないが、「負担増」はあると考える。令和4年度、藤森は校務分掌として教育実習を担当していないが、6名の教育実習生が予定されている。その内1名は家庭科専攻で、インターシップの実習生2名も家庭科専攻である。Y市内の中学校で家庭科の教員がX中学校にしかないことによる。しかし、X中学校の家庭科教員は3年生担任である。通常、3年生担任、3年団の教員は、教育実習配属学級や教科指導を担当しないことになっている。3年生の秋以降はそれぞれの生徒の進路実現に向けて、事務的な事項も含めて力を注がなければならないし、生徒たち自身も落ち着いて平常心で学習に集中しなければならないという実情があるからである。このことから、家庭科の教育実習生の割り当てについては、配慮が必要であったのではないかと考えられる。「教育実習生を受け入れる側には、悲鳴をあげたくなるような現状があること」もあり、「教育実習生の受け入れが学校現場や受け入れ教員に過度な負担になっている」場合もある。「教員の多忙化が深刻になっている昨今にあっては、実習生1人を受け入れることが、日常的な業務においてかなりの負担となる」^{注5)}のである。

さらに、藤森が教育実習を担当して、課題だと考えたことは、「遅くまで残って指導担当教員に迷惑をかけないようにする。」と教育実習要項に記していたのだが、20時まで教育実習生が校内に残ることが複数回あったこともある。教科指導担当教員との授業研究上、仕方がないこともあったが、時間の使い方の工夫の必要性をさらに指示しなければならないことを教育実習担当だった者として反省している。このことは、教員志望の学生の、将来の「教員の働き方改革」への意識に繋がることだと考える。「『働き過ぎ』が問題となっている学校現場で『熱心な指導』を受ける中でハードワークの再生産構造」^{注6)}に教育実習生が取り込まれないためである。

教員不足、教員志望者の減少が課題となっている昨今、教育実習生が実習を経て、より一層、教員を志望する気持ちが強くなるような効果的な、そして、安心安全な教

育実習のあり方が検討されなければならないと考える。とすると、教育実習そのものを見直していく必要があり、①以前から指摘されている学級経営、生活・生徒指導を中心とする実習の見習いの性格と特に近年注目されている教科教育研究を中心とする実践研究的性格の両立のさせ方、②2～4週間程度で一定の時期に規模、場所（都市部・非都市部等）等が大幅に異なる学校で、時間的、空間的文脈を越えて実習させることの意味、の2つの観点は最低必要であると考え。そして、その際、本稿冒頭で指摘した2021年度に「教育実習」を経験していない教員が新規採用され、授業を行っていること、同じく本稿Ⅳで言及した、実習についての大学での代替措置やオンラインの活用といった選択肢も視野に入れることが重要である。これが、本稿の次稿の課題となる。

注記

注1) 文部科学省総合教育政策局『教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）』2021年4月13日。

https://www.mext.go.jp/content/20210413-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf (2022年8月7日閲覧)

注2) 文部科学省総合教育政策局『教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）』2022年3月25日。

https://www.mext.go.jp/content/20220325-mxt_kyoikujinzai01-00836_01.pdf (2022年8月7日閲覧)

注3) 谷田信一「教育実習の両義性とその事前・事中指導」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』25号、2015年、40頁。

注4) 清水茂『実地教育・教育実習の実践的研究』溪水社、2002年、183頁。

注5) 岩田康之編著『教育実習の日本的構造－東アジア諸地域との比較から－』学文社、2021年、186－187頁。

注6) 岩田康之編著、同上、6－7頁。

引用文献

岩田康之編著『教育実習の日本的構造－東アジア諸地域との比較から－』学文社、2021年。

清水茂『実地教育・教育実習の実践的研究』溪水社、2002年。

谷田信一「教育実習の両義性とその事前・事中指導」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』25号、2015年。

文部科学省総合教育政策局『教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）』2021年4月13日。

[https://www.mext.go.jp/content/20210413-mxt_kouhou01-](https://www.mext.go.jp/content/20210413-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)

[000004520_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210413-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf) (2022年8月7日閲覧)

文部科学省総合教育政策局『教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）』2022年3月25日。

https://www.mext.go.jp/content/20220325-mxt_kyoikujinzai01-00836_01.pdf (2022年8月7日閲覧)